

# ボランティアの実践

(産業社会と人間・産業理解に関連したボランティアの実践)

産社産理部会・ボランティア委員会

金城幸廣・大森俊彦

本校は長年、坂戸市福祉作業所と連携を行い、本校生徒との様々なボランティア活動を行う支援を行っている。今回、科目「産社・産理」における福祉に関連したボランティアの授業概要と、ボランティア活動を通して生徒の感想の掲載と様々な実情について報告をおこなった。

キーワード

## 1. はじめに

本校において、教科「産業」は「産業社会と人間」および「産業理解」で構成されている。「産業社会と人間」の中に、自分を見つめなおすという項目があり、その中で福祉講話や福祉体験がある。福祉体験に関連して、ボランティア教育の実践がなされている。本報告は本校における福祉講話・福祉体験と関連させたボランティアの実践報告を行うものである。また、生徒のボランティア活動を通して、反応と教育的効果の検証を行なうものである。

## 2. ボランティア関連の授業

### 2. 1 福祉講話（全体講話）5月6日

障害者施設所長による講話

(1) 趣旨：平成6年度に開設された高等学校の新しい科目である「産業社会と人間」における項目の中の「自己の将来の生き方や進路についての考える」において、障害を持った人の生活の理解及び共に生きる福祉社会の理解を行わせる。

(2) 講話概要：4才の頃に栄養失調で失明しかかったり、幼少の頃に父親を亡くす等の苦しい体験をした。夢を実現するために様々な職業を経験して夜間大学に通った。その後、現在の福祉施設を設立した。みんなもいつか自分一人で生きていかなければならないことにきずいてほしいと同時に苦勞を先にすると後が楽になる。ボランティアは同情することから始めることが大切である。福祉施設を開設して思ったことは人間は皆平等であり、人とのコミュニケーションが大切であると痛感した。

### 2. 2 福祉講話と体験

5月6日の福祉全般の講話に基づいて、1クラスを基準として福祉講話+体験を行わせた。また、今回は車椅子体験と講話・視覚障害の両方を1クラス毎に分けて指導を行う体制であった。

#### (1) 車椅子体験と講話

\*講話の概要

大学時代に事故に遭い、首を損傷、そのため3年入院。下半身不随。手の指も十分には動かなくなる。体温調節もままならない。一時は自殺も考えたが、アメリカ旅行を機に考えが変わった。アメリカでは、車椅子でもほとんど不自由しなかった。入れないレストランも、劇場もなく、車椅子用の通路、スロープがどこでも完備してあった。さらに、たまたますれ違う人たちも皆快く手を貸してくれる。日本との違いを痛感した。日本では、障害者が住みやすい街づくりが進まないのは、他人である障害者という特別な人のためだけ（only）の対策だから。それに対して、アメリカは障害を持つということが誰にもあり得るということが前提に街づくりが進められている。障害者に優しい街づくり、イコール、誰もが（all）安心できる街づくり。（誰だって歳をとる、病気もする、障害を持つ可能性はある）本当に「カッコいい人」とは障害を持った人に一言声をかけられる人。本当に「優しい人」とは障害を持った人に一言声をかける勇気のある人だと思う。

#### (2) 視覚障害講話とブラインド体験

\*講話の概要

私の体験的福祉論

##### a. 目が見えないってことはどういうことか

盲人は主として聴覚（音）と触覚（手と足）によって生活行動をします。

b. 人的・社会的資源の活用。白い杖の働き。  
点字ブロックの役割、音響誘導装置、ガイドヘルパ  
ー等。

c. 喜ばれる介助のしかた。

- (1) スマートな歩行
- (2) バス・トイレには説明を！
- (3) コミュニケーションはわかりやすくより具体的に
- (4) 障害者であることを意識させられない気配りが  
HAPPYです。

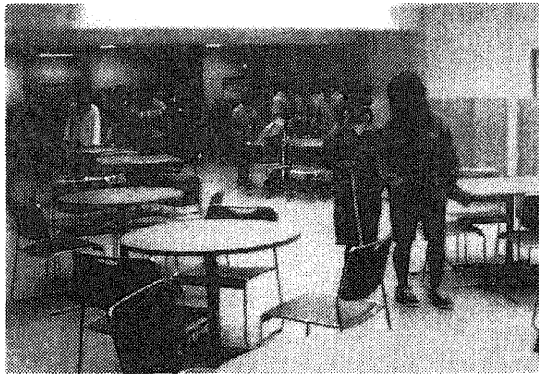


写真11 (ブラインド体験)

### 3. ボランティア教育の事例

本校は坂戸市福祉作業所の従来から継続的な連携によるボランティア教育の実践を行っている。

#### 3. 1 坂戸市福祉作業所

(1) 設立の目的：心身の障害により一般就労をする事が困難な人に働く場を提供し、社会的、身辺的自立のための訓練・指導を行う。

#### (3) 作業所

第一作業所は箱折り、紙加工、部品組立、案内紙ビニール入れ等をおこなっている。

第二作業所は紙すき、はた織り、手芸、廃油せっけん作り、染め) また合同作業 (第1, 第2) として、アルミ缶回収・つぶし、畑、公園清掃、手工芸 (ビーズ)、製菓を行っている。

#### (4) 作業者

現在、市内在住の約20人が在籍している。

#### 3. 3 ボランティア活動事例

(1) 坂戸市福祉作業所祭りへの生徒参加、

##### ①作業所祭りの目的

- ・福祉作業所の施設開放などによる作業所紹介および自主生産品の展示・販売などを通して、地域の人々との交流を図り、作業所・障害者への理解を求める場とする。

②活動日：4月23日 (日)

参加状況：1～3年まで約30名

##### ③活動の様子

参加生徒は1年次から3年次まで多くの生徒が参加している3年次参加生徒は昨年からの参加しており継続的な参加を行っている。1年次の参加生徒はコミキャン時に説明を行い、参加した生徒である。



写真12 (作業所祭り)

#### (2) 坂戸市民祭りにおける福祉作業所のボランティア活動

##### ①活動の目的

「よさこい市民まつり」は平成13年度に坂戸市が市制25周年を記念して生まれた「よさこい鳴子踊り」に坂戸市福祉作業所も毎年参加している。毎年8月下旬の土日を利用して行われている。

②活動日：8月27 (土)～28日 (日)

③参加生徒：約20人が参加

##### ③活動の様子

本校関連の参加はメイン会場における坂戸小学校における、福祉作業所の販売ボランティアが主であった。また、坂戸市福祉作業所のステージにおける出し物の補助・手伝い等がなされた。

販売ボランティアを中心として熱心に活動を行っていた。また、踊りボランティアでは旗持ち等や補助を行っていた。



写真13 (販売ボランティア)

(3) 本校文化祭における、福祉作業所の販売ボランティア  
本校の文化祭（黎明祭）は本年度は9月26日であった。活動状況は本校文化祭開催中でもあり、1年D組6名のみの手伝いであったが、販売ボランティア・校内の案内と積極的に活動を行っていた。



写真14（販売ボランティア）

(4) 坂戸市福祉であいの広場へのボランティア活動

#### ①福祉であいの広場開催の背景

「ふれあい広場」は福祉に対する理解を深めていただくため、各種団体のご協力を得て、実行委員会方式による「市民参加によるまつり」として実施し、大きな成果を得てきた。しかし、「まつり」のにぎやかさが強調され、真の目的が薄れているとの指摘が強調されるようになった。そこで平成15年から「ふれあい広場」は、福祉への市民参加の推進を中心に「福祉であいの広場」として開催することになった。（坂戸市広報より）  
開催日は十月の第二日曜日に設定を行い、坂戸市民運動公園体育館を中心と駐車場の一部を使用して開催することになった。

#### ②福祉であいの広場開催と趣旨

福祉に関する人々が一堂に会し、活動発表・展示・体験コーナーを通して、市民の福祉に対する理解を深めるとともに、福祉・ボランティア活動へ参加する機会をつくり、子供から高齢者、障害のある人・障害のない人もみんなで作る福祉の街づくりの推進に寄与することを目的とする。

③開催日時：10月19日、（日）

④内容：発表展示・体験コーナー

ステージコーナー

模擬店バザーコーナー

#### ⑤本校生徒の活動

本校関連の参加はステージにおける、本校演劇部の出し物、司会、および模擬店バザーにおける販売ボランティ

ア・案内ボランティアであった。以下に福祉作業所サイドよりの感想、本校生徒の感想について掲載を行う。

#### ⑥感想

##### a. 福祉作業所担当者より

当日は集合時間の関係で十分な説明をする間もなく、すぐに各分担や配置についてもらう形となりましたが、億することなく作業所利用者の中に入っていきることができた生徒さんが多かったように思います。4月の作業所祭りなど作業所でのボランティア経験のある生徒さんも多かったので、作業所でのボランティア活動に対して不安は少なかったのではないかと感じました。

ボランティアの内容は作業所利用者と一緒に見学や販売活動、ステージ発表の補助などで、なるべく一日を通して同じ人（作業所利用者）と一緒に行動するように配置させていただきました。一緒に楽しんでいるような姿も見られ、利用者とも進んで関わり持ってくれる人が大半で、利用者の様子からも一緒にイベントを楽しんでいるような感じが見て取れました。積極的に話かけてくれる人、雰囲気盛り上げてくれる人、一人では不安な部分（買い物、トイレまでの誘導など）を補助してくれる人など、ボランティアとしての役割をそれぞれ果たしてくれたと思います。また、どう動いて良いか分からない部分もあったと思いますが、それは経験等によると思われますので、職員の指示で動いて頂ければ良いと思います。しかし、若干名ではありますがボランティアに来ているという目的意識が薄いように思われる方もありました。作業所のみならず一緒に過ごすという意識を持って参加していただけると良いかと思います。

作業所側の説明不足や生徒さんの感覚のずれなども気付かされる点がありました。動きやすい服装としてイメージされるものが違い、生徒さんにとっては動きやすい服装であっても作業所側が思っていた服装でなかったという事がありました。集合に間に合わないときの連絡など、今後は作業所側からの説明でもこういった点にも留意していきたいと思います。

ボランティア活動の最後に生徒さんには、作業所には皆さんのようなボランティア無しには十分な活動活動が出来ないことが沢山あり、ボランティアがいてくれてこそ楽しめることも沢山あるのでボランティアはとても大切だという話をしました。今回のボランティア活動の体験を活かし、将来的に地域など身近な生活の場面で障害者に対して気軽に手を差し伸べられるようになってもらえれば良いと思います。

b. ボランティアに参加して（参加生徒の感想）

b-1 今回で5回目くらいになる福祉作業所のボランティアでした。今日は「であいの広場」で見学と販売のお手伝いをさせていただきました。見学では作業書の人とスタンプラリーをしたり、買い物一緒にお弁当を食べたりしました。販売ではパウンドケーキや手作り石鹸、ストラップなどを一緒に売りました。おどりでは「明日があるさ」を踊りました。練習しなくて不安だったけど、とても楽しく踊れて良かったです。

今回は初めて男の人とペアで、トイレなど戸惑ったこともあったけど、とても良い体験でたくさん学びました。とても楽しかったし、本当にありがとうございました。

b-2 今日は、出会いの広場にボランティアという形で参加させて頂き、ありがとうございました。1日ばかりで参加させて頂きましたが、本当に他のしかったです。もうすぐ高校生活も終わってしまい、坂戸福祉作業所に行く機会もなくなってしまうかもしれないですが、今後もボランティアの募集があれば、是非参加していきたいと思っています。貴重な楽しい体験をありがとうございました。

b-3 司会を行って

今回はパフォーマンスするという事で参加させてもらいましたが、いつかボランティアでも参加してみたいと思いました。いろんな所から、いろんな人が集まってくるので普段接することができないたくさんの人と交流することができるので、とてもいいお祭りだと思いました。

自分達が舞台上上がるのは緊張しましたが、本番の前に外とお店を出している人に「筑波さん頑張ってね。」と何回か言われて、嬉しかったです。お客さんと自分達が近かったのでどんな顔で見ているのかとかわかって、やりがいのあるパフォーマンスの時間でした。

最後の片付けも、大勢の人がテキパキ動いているので、どんどん片付いていって、ちゃんと準備や後片づけをする人がいるからこそ、そういうお祭りが成り立つんだという事が改めてわかりました。

全体として印象的だったのが、お店を出している人も、お客さんもボランティアの人もみんなが楽しそうという事です。自分もその中の1人になれたと思いました。いろんな意味で、とても勉強になりました。

c. 実行委員長より（坂戸市広報より）

「ほんの小さな、もしかしたら、誰にも気付かれないか

も知れない、本当に小さな、思いやりの気持ちを持てる、そんな「自分自身」に出会える広場」と解釈している。

#### ⑦活動の様子

今回、生徒は様々な日程（中間考査期間中、各種検定試験）の中で、多くの生徒が参加してくれた。それぞれ、与えられた箇所でも熱心に活動を行っていた。初めて参加する生徒もいたが、ステージにおける福祉作業所の出し物において福祉作業所の補助を行った。また、昨年卒業した生徒は3人も一般のボランティア参加でかけつけてくれた。3人とも在学時から継続的に参加した生徒であり、ボランティア意識が定着したことが示された。



写真15（ステージ演劇部）



写真16（明日があるさ）

#### (5) 交流会における「歩こう」への参加

##### ①参加の趣旨

例年行われている附属関連の養護学校との交流会は今年度はA・B組が桐ヶ丘養護学校、C組は大塚養護学校、D組は坂戸市福祉作業所と行った。

②日時は11月5日（金）、例年行われている秋の歩こうへの参加であった。2 km、4 km、7 km、9 kmと4つのグループに分かれて各コースで交流をおこなった。

##### ③参加加生徒の感想

a. 今日はC班「7 Kmコース」だったのでとても疲れました。始めはなかなかみんなと話ができず無言で歩い

ていました。しかし、半分以上歩いた時点からだんだん作業所の人々が心を開いてくれたのか話かけると答えてくれ、冗談を言ったりしました。すごく楽しかったです。交流会はものすごくあがったので良かったと思います。

b. 今日はとっても楽しかったです。歩こう会をととても良い天候で迎えられてとても良かったと思います。歩いている途中のコスモス畑などいろんな秋の自然を見ることができて気持ちよく歩くことができました。みんなで踊った「明日があるさ」など良い思い出になったと思います。「恋愛ポリューション21」などとても可愛く、上手かったです。また、みんなで踊ろうネ！

#### ④坂戸作業所所員の感想

ぼくは、7kmコースを歩きました。楽しかった。ボランティアさんと歩きました。ことぶき壮で一休み。アメをみんなで食べました。少し歩いて野外活動センターでゴール。みんなでお弁当を食べました。ボランティアさんが作ってくれたトン汁は美味しかった。



写真17 (歩こう会1)

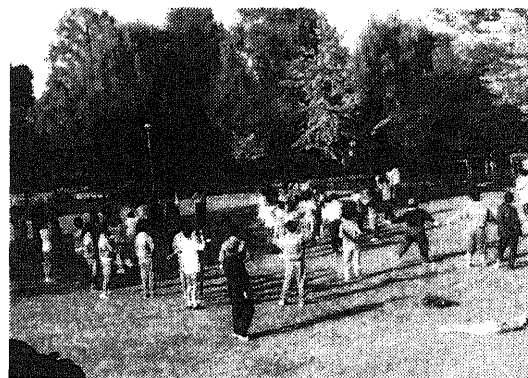


写真18 (歩こう会2)

#### (6) 春の歩こう会への参加

##### ①参加の趣旨

坂戸市福祉作業は1年を通してボランティアを募集している。今回の参加は本校2年次の生徒が進路選択のためとボランティア体験を行いたいとの要望によるものであった。2年時2名が参加した。

②内容：2km、4km、7kmの各コースに分かれて、春の暖かな気分のもと、運動に一環として歩行を楽しむ。

##### ③参加生徒の感想

福祉作業所のハイキングのイベントに参加して、たくさんの人たちとコミュニケーションをとることができました。とても暖かいお散歩日和で、私は一番長い距離を歩きました。初めは「障害者」に対する偏見を強く持ちすぎていてなかなか楽しむことができませんでした。しかし、福祉作業所内の人たちから積極的に話かけてくれました。本来ならボランティアとして参加している私からみんなに話しかけていくべきはずなのに、「暑くない」「大丈夫」などといった言葉をたくさんかけてもらい私が勇気づけられたような気がします。みんなとてもやさしい方々ばかりでした。手をつないで休憩所や公園に向かっておしゃべりしながら楽しい時間を過ごすことができました。

私は障害を持っている人について私たち健常者とは違うときめつけていました。多少のハンディキャップを背負って生活していますが、会話や行動など、普通に同じ時間を過ごすことができる。障害をもっていたとしても変わりないということをボランティアを通して分ることができました。短い時間だったけど「ゆりちゃん、今日は来てくれてありがとう、また遊びに来てね」といってくれました。自分がなんか必要とされていて嬉しく思いました。また機会があったらぜひ、参加したいと思いました。

#### 4. 教育的効果について

(1) 坂戸市福祉作業所と継続的な連携により、本校生徒は気軽に参加するようになった。単発的でなく継続的な連携活動は大切である。

(2) 福祉体験講話やボランティア体験を通して、最大の目的は障害をもった人と分け隔てなく接することができる態度を養うことである。生徒の感想にもあるように体験を通して普通に接することができた視点を養うことが可能となった。

(3) 福祉講話・車椅子体験・ブラインド体験を通して生徒は様々な視点を持つことができた。また福祉講話や坂戸市福祉作業所担当者の話等を通して共通することは障害者とバリエアを超え接する態度を養うことが生徒の求められている。その意味では確実に理解がはかれたものと考えられる。

(4) 他の活動として、本校生徒が卒業する際、美術関連の不用品を坂戸市福祉作業所の提供するを行っている

る。このことは生徒に不用品を有効に活用できることと、物を大切にする意識を養うものと考えられる。また7月下旬に本校プールを使用して、主に本校各種部活動生徒と坂戸市福祉作業所作業者と交流も行っており、それぞれ大変感謝されている。

## 5. おわりに

総合的な学習を展開する中で「ボランティア学習」がある。ボランティア学習は、「人とのふれあいや自然とのふれあいをとおして、地域社会や地球社会にある多様な課題を知り、その解決のため果たすべき、公共の社会の一員として役割を探るための社会体験学習である。(社会教育団体(社)日本青年奉仕協会常任理事、興紹寛氏)」と一般にみなされている。本校において、地域社会と連携したボランティア活動は坂戸市福祉作業所との連携を通じて年間を通して活動を行い、有効なものとなった。

## 引用文献・参考文献

- 1 筑波大学附属坂戸高等学校(2001)『[総合学科]を創るー生き生きと伸び伸びと学ぶ喜びをー』(学事出版)
- 2 総合的な学習こう展開するシリーズ『ボランティア学習』(清水書院)
- 3 ボランティアとらの巻(埼玉県ボランティアセンター)